

科目名	水準測量実習				
担当教員	佐藤 雅男・稲田 巧		実務授業の有無	○	
対象学科	環境測量科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	測量業、建設業にとって測量作業の基本であり、重要な分野である。水準測量の技術が地形測量、応用測量等の測量分野に活用されている。				
学習目標 (到達目標)	チルチングレベル、オートレベルによる環閉合観測、往復観測ができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント（手簿及び記載例）を配布し、それに基づいて授業を行う				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	測量器械の使い方、整置	水準測量で使用される器具について。チルチングレベルの整置練習、標尺の読定			
2	環閉合	チルチングレベルによる環閉合観測の実施			
3	往復観測	チルチングレベルによる往復観測の実施			
4	電子レベル・マイクロメータ	※雨天時に学校内で電子レベルの観測を行う。また、マイクロメータの読みを行う。			
5	オート（自動）レベル	オートレベルによる環閉合、往復観測の実施			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
本試験の結果と中間試験の結果で、総合評価する。 期末試験60%、中間テスト40% B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 実習を通して水準測量に関する技術を習得し、測量士補としてふさわしい実力をつけてもらいたい。なお、水準測量は測量の基本であるため、今後学習する地形測量、応用測量にも活かしてほしい。			
実務経験教員の経歴	建設会社にて施工管理及び測量業務17年（佐藤）・測量会社にて測量業務24年（稲田）				